

① まきを山頂付近まで運搬／② 送り火でおたき上げる塔婆を回収／③ 火床が平らになるように地拵えなどの下準備をする／④ 火床作りの資料(抜粋)



準備作業をする茂留さん(1983年8月)



以前の火床作りの様子(1983年8月)

先祖が再び極楽浄土に帰るための道筋を照らす火

一般的にお盆には、先祖が極楽浄土から子孫の家に帰ってきて、数日間過ごし、16日夜に再び極楽浄土に帰ってゆくと考えられている。お盆の迎え火は先祖を迎え、送り火は先祖が極楽浄土へ帰る道筋を照らすための火とされている。

平泉の「大文字送り火」(2011年までは「大文字まつり」だったが、東日本大震災をきっかけに「大文字送り火」に名称を変更)は、終戦20年と中尊寺金色堂の新覆堂の完成を記念し、戦没者の慰霊、五穀豊穡を願い、1966年に初めて開催。束稲山に連なる駒形峰に見える「大」の字は、中尊寺に伝わる「紺紙金銀字交書一切経」(国宝)の中から

CHAPTER. 1

# 意志を引き継ぐ—送り火の意味

戦争で亡くなった人たちを慰めるため、今から52年前に開催された「平泉大文字送り火」。しかし数年前から、これまで行事の準備作業をしていた人たちの高齢化や人手不足などにより、開催までの準備が厳しい状況にあった。その状況を打破するため、ある団体が手を挙げた。



「紺紙金銀字交書一切経」から選ばれた「大」の文字。「大」にはこの世の全て、全宇宙などの意味が込められている。

駒形峰の山頂に描かれた「大」の文字

た。「大」の文字に合わせて、松の木の枝葉などをそのまま地面に並べて燃やしたため、危うく延焼してしまうところだった。その後間隔を空けてまきを井桁状に組むなど試行錯誤した結果、今の方法となった」と振り返る。

**引き継ぐ人がいなかった火床作りの準備作業**

大文字送り火を実施するには、周辺の下草刈り、まき割り、まきの運搬・設置などが必要となる。これらの作業を約30年間1人で実施してきたのが、千葉茂留さん(15区)である。最初のころは地元住民グループで準備作業をしていたが、一人抜け、二人抜けと続くうちに、最終的には茂留さんだけになってしまったとのこと。しかし高齢になるにしたがい体力的にも厳しくなり、茂留さんだけでは準備が難しい状況になった。そんな時手を挙げたのが、地域の活性化を図るために2013年に設立された「NPO法人みんなで作る平泉」である。理事長の小野寺郁夫さんは「伝統ある行事を絶やさないためにも、作業を引き継ぐ必要があった」と話す。

現在ではNPO法人みんなで作る平泉が中心となり、火床作りの準備作業を行っている。

第1回開催時に平泉町総務課で消防主任として送り火に関わった小松代智さん(13区)に当時のことを聞いた。「最初のときは山林内で大きな送り火をするノウハウがなかったため苦労し

選ばれたもので、平安時代独特の優雅な写経体文字をそのまま拡大している。「大」の字の大きさは1画目80cm、2画目112cm、3画目79cmとなっている。

**「平泉大文字送り火」第1回開催時を振り返る**



供養された祈り鶴

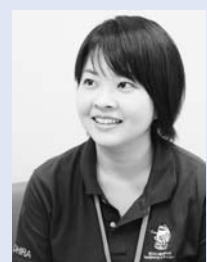
東日本大震災物故者の慰霊を込め、「祈り鶴」を供養

県南広域振興局では、平泉世界遺産の理念を発信し、復興支援につなげるため、2011年度から通算5年間にわたって「世界遺産平泉復興応援『祈り鶴プロジェクト』」に取り組みしてきました。そして集まった4万2198羽の祈り鶴は、平泉大文字送り火で供養されることとなり、送り火とともにたき上げ、鎮魂の祈りをささげました。

プロジェクトを通じて、被災地への思い、復興を願う温かい気持ちを被災地をはじめ県内外の人に伝えることができました。プロジェクトの趣旨に賛同し、快く協力してくれた参加店舗や参加団体の皆さま、本当にありがとうございました。



topics



県南広域振興局 観光商業・食産業課 中野絢子

interview



小野寺郁夫 NPO法人みんなで作る平泉 理事長

## 大文字送り火の火床準備をぜひ一度体験してほしい

火床作り作業を引き継いだ当初は今後どうなることかと不安でしたが、材料の並べ方などを研究し、スムーズに運べるようになりました。火床作りの経験により、大文字送り火がより感慨深いものになるはずです。一般参加者も募集していますので、ぜひ体験してみてください。

interview

## たくさんの人たちに支えられている大文字送り火

平泉大文字送り火は準備から終了まで、たくさんの人たちがさまざまな形で陰から支えてくれており、とても感謝しています。また送り火は、雨や強風など気象状況にとっても左右されます。準備万端にしても、当日点火するまでは毎回気が抜けません。



千葉繁 一般社団法人平泉観光協会 事務局長